

### ◆新学習指導要領指導案◆

# 群馬県太田市地方図を利用した 身近な地域の学習

群馬県太田市公立中学校教諭

## 学習のまとめとしての位置づけ

このたび太田市では帝国書院の協力を得て、『群馬県太田市地方図』（太田市中学校社会科研究会編集。以下、太田市地方図）を全面カラーに改訂した。表面には、2万5千分の1の地形図、史跡・文化財、裏面には、1952年頃の地図、中島飛行機時代の太田、太田市のシンボルである金山の断面図を掲載している。この地方図を使えば、市の地理的状况や歴史の変遷について知ることができる。地域学習をする際に最適な教材である。本稿では、この地方図を使って「身近な地域の学習」の授業案を展開したい。

さて、今回の学習指導要領の改訂では、「身近な地域の調査」は、「日本の様々な地域」の中項目に位置づけられ、地理的分野の最後に設定された。過去、日本の諸地域の学習の前に位置づけられていたものが、なぜ、最後に位置づけられたのか？

『中学校学習指導要領解説 社会編』（以下、解説）p.56～57に端的に述べられている。

既習知識、概念や技能を生かすとともに、地域の課題を見だし考察するなどの社会参画の視点を取り入れた探究型学習を地理的分野の学習のまとめとして行うことが期待されている。

この部分は、重要である。

内容の取扱い（2）アにあるように、地図帳を活用して系統的に地理的技能を身につけることが重要だ。地理的な見方や考え方、地理的技能は、一度学習したからといって身につくものではなく、学習を繰り返すなかで身につけていくものである。言語活動の充実も同様である。日頃の学習規律、学習訓練、学習指導の積み重ねが大切なことはい

うまでもない。

この単元は、ただでさえ、縮尺の計算や等高線、地形図の見方など地図の決まりの習熟に偏ってしまう傾向がある。だからこそ、こうした技能を効果的に習得するよう系統的・継続的に学習することについては、とくに意識したい。

また、解説p.60にあるように、地理的なまとめや発表の際は、観察や地域調査の結果を地域の課題と関連づけてまとめること、地図化するなどの工夫をすることが大切だ。こうした点にも意識をして日頃からの学習を積み上げておきたい。

そして、「社会参画の視点を取り入れた探究型学習」が求められている。地域の将来像や地域の課題の解決策などについて考えたり、意見交換したりすることができるような学習も積み上げておきたい。

本単元での学習内容は、小学校とくに第3・4学年での学習内容とも重複している。小学校での学習事項について十分に理解をしておき、一人ひとりの既習事項や生活経験、興味関心を引き出すような展開を心がけたい。

## 2 単元計画

フィールドワーク・調査・観察活動も行うとなると、1時間や2時間での活動では不足である。さらに、時期的にも3学期になることが予想される。安全面や健康面をはじめ、配慮しなければならないこともある。社会科の授業時間だけで実施することは時間割の問題もあり、現実的には難しい。そのため、年間指導計画のなかにはしっかりと位置づけたい。

また、この単元は、「地理的分野の学習のまと

め」として位置づけられているが、唯一、直接経験地域を扱う単元である。「系統性に留意して計画的に指導すること」と学習指導要領3内容の取扱い(2)にあるが、これまで地図に関する基礎的な知識や見方を育てる時間が特別にあるわけでもなく、大きな縮尺の地形図を利用した学習の機会もほとんどないのが実情だろう。以上のようなことから、これまでの学習を整理し、十分に時間をかけて、地図に親しませ、活用するための技能の習熟を図りたい。

以下の時間数を実際に確保するのは難しいが、地形図や地域調査を扱う本単元には十分な時間を取りたい。

### 1. 地図の決まりを身につける(2~4時間)

縮尺や方位、地図記号、等高線などの地図の決まりを理解させ、読み取ったり、計算したりするなど活用できる基礎的な技能を身につけさせる。

また、授業開始の小テストや反復学習を行い定着を図りたい。

#### (1) 地形図と空中写真を比べる

平成24年度用『社会科 中学生の地理』(以下、新教科書) p.264の④地形図とp.265の⑥空中写真を比べて、気づいたことを話し合わせる。地形図の役割に注目させる。

#### (2) 地形図と空中写真の長所・欠点を考える

実際の景観と地形図を比較しながら、方位・記号・縮尺・等高線などの地図の決まりがあることに気づき、関心をもたせていきたい。

#### (3) 目的に応じた地図の使い方を知る

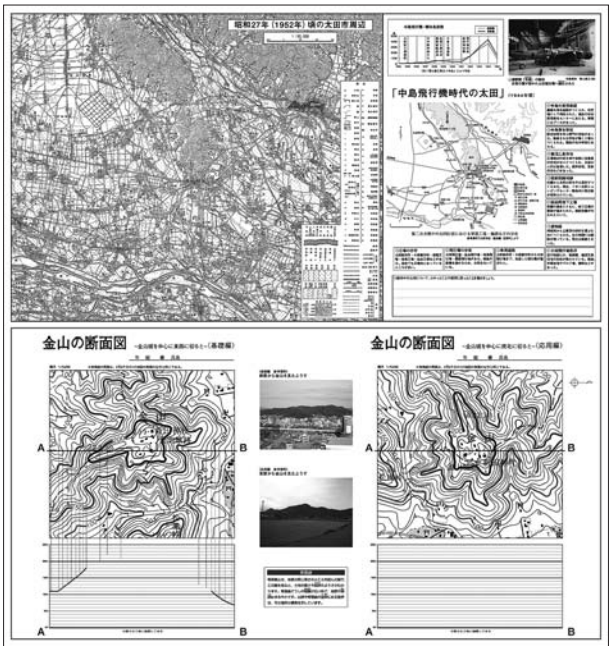
地図帳・道路地図・観光地図・地形図、住宅地図、カーナビ地図など目的によって使い分けのことを知らせ、2万5千分の1と5万分の1、それぞれを比べた時の長所・短所を考える。

#### (4) 地図上の方位を確かめ、地図記号を調べる

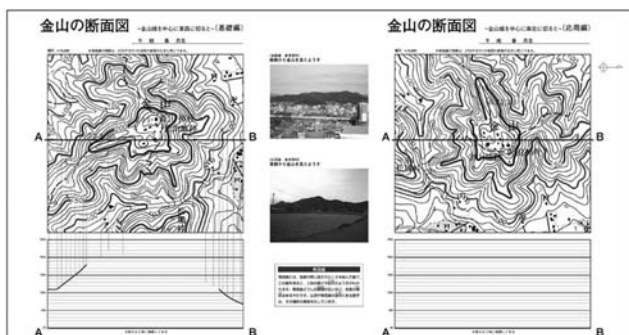
方位磁石とも合わせて説明し、起立をさせ、具体的に八方位を確認する。感覚的にどこが基準となるのかを身につけることができるようにする。さらに、学校のどの方位にどのような建物があるのかを言葉で表現させる問題を繰り返す。最後に、問題を解かせるなかで定着を図る。記号の役割、由来、約束ごとなどにもふれながら、生徒の日常生活と関連づけて身につけさせる。

#### (5) 縮尺を理解し、地図帳で実際の距離を求める

平成24年度用『中学校社会科地図』(以下、新地図帳) p.107~108を開かせる(縮尺の書いてあるページならばどこでもよい)。まず、2万5千分の1の地図上で1cmを求める。その際、校舎や校庭で実際の長さをイメージできるようにする。



『群馬県太田市地方図』(左…表面、右…裏面、実際はカラー印刷)



金山の断面図

ビーを掲示し、色鉛筆で着色をしながら、丁寧に進めたい。できれば景観写真と照合しながら進めるとよい。クイズ形式でゲーム感覚を取り入れながら進めると非常に盛り上がり楽しい時間となる。次に、太田市の様子を把握させるために、建物が多く密集している場所・工場の場所・田畑の多く広がる場所を確認し、ノートに自分の言葉で太田市の様子を説明させる文章を書かせる。その後発表し、共有する。

その後、段階的に練習問題を行う。

### (6) 等高線を知り、断面図を描く

等高線を描く作業を通して、土地の高低を読み取るようにしたい。新教科書p.266「やってみよう」で作業をしながら一つ一つ手順を追って断面図の描き方を確認していく。作業を通して理解を確かなものとするために、練習問題を行う。その後、金山の断面図に取り組む。

この金山の断面図は、太田市地方図の目玉の一つでもある。生徒がつまづかないように、等高線と断面図の該当部分を同じ色で着色し、作業に取りかかりやすくした。

## 2. 学区内や市内の地理的事象の読み取りを通して、地形図に習熟する(2~4時間)

ここでは、前時まで学習したことを活用して、2万5千分の1の太田市地形図を用いて地図の使い方を習熟させる。

屋上に上られるのなら、四方の景色を十分に見せ、気づいたことを生徒間で共有する時間をつくりたい。屋上に上がれなくとも、ゲーグルアースやストリートビューなどの使用もよい。

地図の読み取りに際しての出題は、学校区内を基本に、景観写真を用意し、目で見ているものと地形図に描かれているものを確認させたい。全員が正解するような出題を心がけ、どの生徒にも意欲を持続させるようにしたい。

### (1) 太田市の基礎的知識を確認する

太田市周辺の市町村や鉄道、高速道路、幹線道路を調べる。その後、自分の中学校を調べ、中学校区、自宅等を確認する。

生徒の取り組んでいるものと同じものの拡大コ

### (2) 太田市地方図から地図の決まりを読み取る

地図記号や方位、等高線、縮尺など地図の決まりを、太田市地方図を活用するなかで習得させていきたい。

地図記号は、市役所や郵便局、消防署などの写真を提示し、地形図からその地図記号を見つけさせる。また、校区内の景観写真を示し、地形図からその場所を探す。ここもクイズ形式で進めるとよい。

方位については、中学校から見て、〇〇小学校はどちらの方位か、金山の頂上から〇〇中学校をながめると、16方位でどの方角になるかなど、実態に応じて発問を工夫したい。

縮尺は、地形図を用いて、自分でものさしを使い、縮尺から計算して実際の距離を求める。「□□小学校から〇〇中学校までは何mか。」などのような出題をするなかで、丁寧に進める。縮尺から実際の距離を求める問題は、生徒にとっては難しいので、何度も復習をして定着を図る。

### (3) 現代の太田市地方図から地理的事象を読み取る

太田市の地理的事象を読み取り、交流するなかで、生徒が太田市の課題を見つけ、問題を明らかにできるように指導したい。

日頃から感じている疑問や、写真や地形図を見て抱いた疑問をできるだけたくさんノートに書かせる。また、諸事象を位置や空間的なかかわりでもとらえられるように、「どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか」「規則性や傾向はあるのか」と問いかける。

発表する際は、太田市地方図を拡大コピーし、



黒板に掲示する。とくに、「なぜ、ここにあるのか」「どうして変わってきたのか」「いつごろからあるのか」「これから先もあるのか」「〇〇地区はこんなふうになっている」などの疑問や空間軸、時間軸に着目した発言を促す。学習の最後には、ノートにまとめる時間をつくる。

### 3. 仮説→地域調査→特色をまとめる(2～4時間)

新旧太田市の地図から地理的事象の変化を読み取り、仮説を立て、調査を進め、結果をまとめる。教師も太田市のさまざまな資料を用意しておくことが必要だ。なお、この4時間には、地域調査の時間は含まれていない。

#### (1) 地理的事象の変化の読み取り→発表する

太田市地方図裏面には、「昭和27年(1952年)頃の太田市周辺」の地形図を掲載した。新旧の地方図を比較させ、「新しくできたもの、変化したもの、なくなったものはないか」と問いかけ、違いや共通点を考えさせたい。

発表する際は、前時の拡大した太田市地方図に、色を変えて表していく。また、似た発言をグループ化し、新旧対比して板書する。学習の最後には、ノートにまとめる時間をつくる。

#### (2) 仮説→発表・交流→調査計画を立てる

仮説は、できるだけたくさん考え、ノートに書かせる。交流後、クラスの意見を参考に自分自身の仮説を立てさせる。仮説が立てられたら、何を、どうやって調べたらよいか、必要な資料は何か、質問内容などをノートに書かせ、調査を行うにあたっての留意点を確認する。

#### (3) 調査→結果をまとめる

各仮説にもとづき、野外調査・文献調査・インターネット、聞き取りなどでの調査を行う。必要に応じてゲストティーチャーを招き、地域の変遷や、土地利用の変化について話を聞いてもよい。また、社会参画の視点で考えていく場合に、歴史的事象についても目を向けておきたい。歴史的分野の学習においても地図の活用には十分留意し、地理的な事柄とのかかわりに配慮したり、地理的条件に着目して扱ったりすることで多面的・多角的に考察する能力を高めたい。

以上のようなことから、太田市地方図には、史

跡や文化財、中島飛行機時代の地図を掲載した。

また、地域社会の形成に参画し、地域の発展に尽くした先人を学習するとよい。「道徳」の時間などで、先人の働きをとりあげて指導する時間をつくりたい。そ

の際、太田市では、「太田に光をあてた先人たち」という図書が各学校にも配布されている。活用したい。

#### (4) 発表・意見交流→まとめ

意見の根拠を大切にし、整理し、「考え」を比較したり、分類したり、関連づけたりすることが大切である。そのためには、教師が子どもに考える視点を教え、子どもの意見を整理することが大切である。

### 4. 地域の将来像を考える(1～2時間)

これまでの学習内容を振り返りながら、今後の太田市について予想する。発表・意見交流、本時のまとめをする。

「将来、課題になりそうなことはないか、その課題に対して、今から取り組めることは何だろうか」と問いかけ、さらに考えさせたい。

その後、互いの考えを交流させ、自分の考えを発展させるようにする。

### 5. これまでの学習を通して、太田市の地域的特色と課題、将来像についてまとめる(1～2時間)

まとめさせる際は、根拠や理由を明確に示すために、地図や写真、統計資料、グラフ、表など、これまでに習得してきた地理的技能を活用させ、事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したりさせる。評価の際は、地理的技能を習得しているか、自分の言葉で表現しているかに留意する。

2時間では、まとめも終わらないだろう。「総合的な時間」等との関連をはかり、まとめる時間を十分に確保し、発表する活動をつくりたい。



「中島飛行機時代の太田」